



DIGITAL HEARTS HLDGS.

株式会社ハーツユナイテッドグループは、2018年7月1日より、「株式会社デジタルハーツホールディングス」に社名を変更し、今後より一層の知名度及びブランド力の向上に努めて参ります。

Corporate Data

会社概要(2018年3月31日現在)

会社概要

社名	株式会社ハーツユナイテッドグループ (Hearts United Group Co., Ltd.)
設立	2013年10月1日
資本金	300百万円
発行済株式総数	23,890,800株
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部 (証券コード:3676)
グループ会社 (※は関連会社)	株式会社デジタルハーツ DIGITAL Hearts USA Inc. DIGITAL Hearts (Shanghai) Co., Ltd. Aetas株式会社 株式会社フレ임ハーツ *株式会社ZEG
従業員数(連結)	750名



株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日 定時株主総会	毎年3月31日
期末配当金	毎年3月31日
中間配当金	毎年9月30日
株主名簿管理人 特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都府中市日鋼町1-1 郵送先 〒137-8081 新東京郵便局私書箱第29号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 TEL 0120-232-711 (通話料無料)
上場証券取引所	東京証券取引所
公告の方法	電子公告により行う
公告掲載URL	http://www.heartsunitedgroup.co.jp/

(ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じたときは、日本経済新聞に公告いたします。)

株主通信

2018年3月期 2017.4.1 ▶ 2018.3.31



株式会社 ハーツ ユナイテッド グループ

証券コード：3676



Top Message

アジアNo.1の「総合テスト・ソリューションカンパニー」を目指す

株式会社ハーツユナイテッドグループ
代表取締役社長 CEO
玉塚 元一

Top Message

Q | 2018年3月期を振り返ってみていかがでしょうか？

A | 近年、IoTやAI等の技術革新を背景に、社会インフラや企業活動を支えるシステムやソフトウェアが複雑化していることから、これらの開発において品質を担保するためのテストの重要性はますます高まるとともに、テストに係る工数も急速に拡大することが見込まれております。

その一方、日本では、少子高齢化による人材不足が懸念されており、特にIT人材は、慢性的に不足することが予測されています。

このため、テストのアウトソースが急速に進むことが見込まれており、当社グループでは、これらの環境変化をさらなる成長機会と捉え、2017年6月に新経営体制に移行し、「第二創業期」と位置付け、組織体制や事業戦略の見直し等、様々な改革を進めて参りました。

引き続き、既存領域であるエンターテインメント分野では、顧客企業との関係強化に努めるとともに、成長余

地の高いエンタープライズ分野においては、事業拡大を加速することを目的に、テストやセキュリティ等の専門性の高い人材を一気に増員し、急速な事業変化に耐えうる強固な経営基盤の構築に努めて参りました。

その結果、2018年3月期は、エンターテインメント分野において、一部パチンコ・パチスロの規制等の厳しい市場環境の影響を受けたものの、コンシューマゲーム及びモバイルゲーム向けのデバッグサービスが好調に推移し、継続的な成長を実現いたしました。また、重点的に取り組んできたエンタープライズ分野におけるシステムテストサービスも下期より成果がではじめた結果、大幅な増収を達成し、売上高は17,353百万円(前期比112.4%)と過去最高を更新いたしました。

一方、利益面では、人材・技術・設備への攻めの投資を実施したこと、また、初開催となるe-sportsイベントにおいて損失を計上したことなどから、営業利益は1,735百万円(前期比91.0%)となりました。

連結業績

(百万円)	前期実績	当期実績	
	17/3期	18/3期	前期比
売上高	15,444	17,353	112.4%
営業利益	1,906	1,735	91.0%
経常利益	1,997	1,782	89.3%
親会社株主に帰属する当期純利益	795	1,200	151.0%

決算のポイント

- ▶ ゲーム向けデバッグ及びシステムテストサービスが業績を牽引し、**過去最高の売上高を更新**
- ▶ 注力事業であるエンタープライズ事業の成長を加速するため、**人材・技術・設備への攻めの投資を実施**

Q 2019年3月期の見通しについてお聞かせください。

A 2019年3月期も、「第二創業期」として、積極的な挑戦を続けることで、過去最高の売上高、営業利益の達成を目指して参ります。

従来の事業領域であるエンターテインメント分野では、これまで培ってきたノウハウや強固な顧客基盤を活かし、デバッグサービスを中心に、より一層、クライアントとのエンゲージメントを高め、さらなる成長を追求して参ります。

また、成長ドライバーとして位置付けるエンタープライズ分野では、引き続き専門性の高い人材の採用・育成に注力するとともに、技術の活用によるテスト自動化やセキュリティ事業の拡大を推進することで、確固たるポジションの確立に努めて参ります。

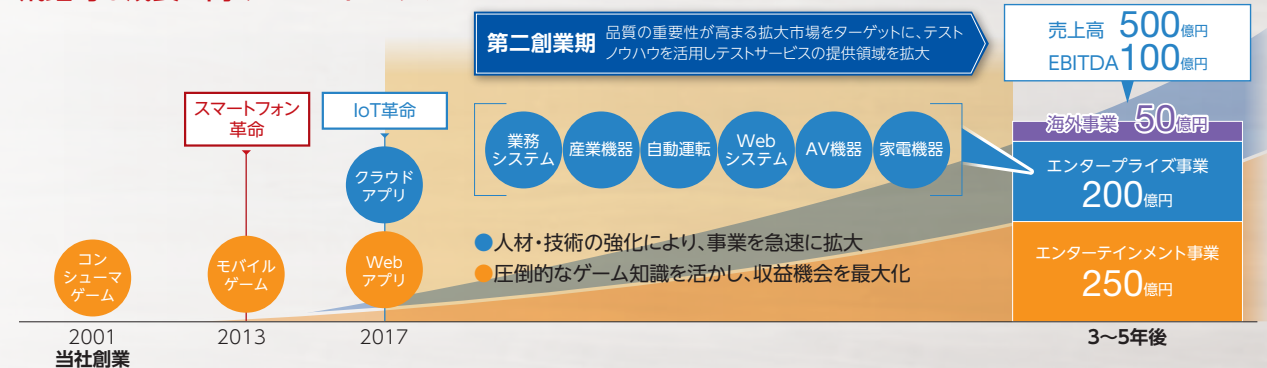
Q 株主の皆様への一言をお願いいたします。

A 当社グループは、『アジアNo.1の「総合テスト・ソリューションカンパニー」』となるべく、新たな舵を切りました。

これまで、ゲームなどのデバッグを行ってきた「テスト人材」をWebシステムや業務システム等のテストを実施する「テストエンジニア」へと育成し、エンタープライズ分野の事業拡大を推進いたします。また、自動化やAI等の技術は、エンターテインメント分野でも活用することで、技術と人材の有機的な統合を図り、飛躍的な成長を目指して参ります。

株主の皆様におかれましては、是非、今後の当社グループにご期待いただき、引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

飛躍的な成長に向けたロードマップ



Progress of Next Business Development Term

第二創業期の進捗

磨かれたテスト・検証の力をゲーム分野からシステムの領域へ

この度、ゲームやアミューズメント機器向けのサービスを「エンターテインメント事業」、Webシステムや業務システム向けのサービスを「エンタープライズ事業」と新たに区分し、各分野の成長を加速することを目的に、事業本部制を導入いたしました。

今後は、この新体制のもと、多様化する顧客ニーズを的確に捉えた高品質なサービスの提供に努め、企業価値のさらなる向上を図って参ります。



18/3期セグメント別業績

エンターテインメント事業

売上高 15,568百万円 (前期比114.6%)

セグメント利益 2,948百万円 (前期比114.1%)

エンタープライズ事業

売上高 1,898百万円 (前期比100.0%)

セグメント損失 △9百万円 (―)

Close Up 開発エンジニアからテストエンジニアへ転職し、活躍する人を直撃取材！

Q 転職のきっかけは？

A 私は元々、計測機器の開発に携わっていましたが、花形プレイヤーの多い開発エンジニアの中では評価されづらかったこと、また、私自身、新しいものを創り出すというよりは、既にあるものをブラッシュアップすることの方に興味があったため、テストエンジニアへの転職を決意しました。

Q テストエンジニアのやりがいはいは？

A やはり、“バグ”を見つける楽しさです。開発エンジニアの時は、バグは“あってはならないもの”だったのですが、今は、バグがあると“よっしゃー！”という気持ちになります。また、開発の知識があるため、プログラムの構造からバグが発生しそうな部分を見つけやすいという自分自身の強みにも気づくことができました。今では、システムテストの認定資格も取得し、テストエンジニアとしての道を極めて行きたいと思っています！



エンタープライズ事業本部
業務部 システム検証グループ

渡會 展之

エンタープライズ事業の飛躍的な成長により 過去最高を更新する見通し

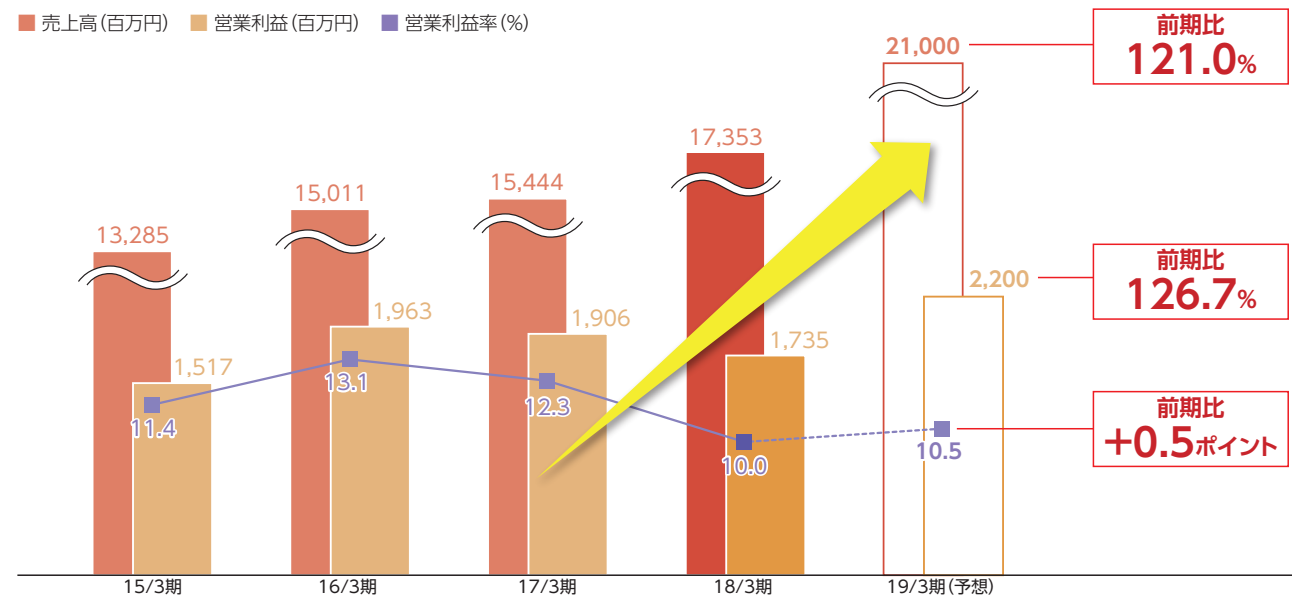
好調なコンシューマゲーム及びモバイルゲーム向けのデバッグサービスを中心に、エンターテインメント事業は引き続き着実に成長する見込みです。

また、注力分野であるエンタープライズ事業では、専門人材をはじめとする投資を継続しながらも、早期の投資効果発現に努めるとともに、積極的な営業活動及びアライアンスも活用したサービスの拡充に注力することで、前期比200%以上の成長を目指して参ります。

これらの増収効果により、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益も大幅に増益となる見込みです。

連結業績の推移

■ 売上高(百万円) ■ 営業利益(百万円) ■ 営業利益率(%)



連結業績予想

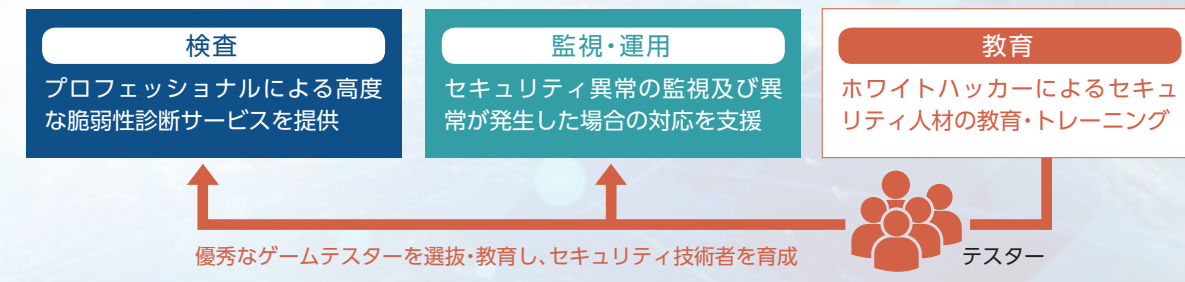
(百万円)	18/3期 実績	19/3期 予想	前期比
売上高	17,353	21,000	121.0%
営業利益	1,735	2,200	126.7%
経常利益	1,782	2,224	124.8%
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,200	1,533	127.7%

特集

セキュリティ事業に本格参入

当社グループは、デバッグ・システムテストと親和性の高いセキュリティ事業の拡大にも注力しております。この度、これまで培ってきた「バグ」発見のノウハウや豊富なテスト人材と、AIや自動化などの最先端技術により構成される「デジタルハーツセキュリティソリューションセンター」を新たに開設し、セキュリティ事業に本格参入いたしました。また、2018年6月に米国のセキュリティベンチャー企業二社と協業し、新しいサービスの提供を開始いたしました。

デジタルハーツセキュリティソリューションセンター



New Service

検査

Synack

ペンタゴンが指名する クラウドソーシング脆弱性検査サービスの 提供を開始

米国のSynack社と協業し、合格率10%以下の厳しい審査を通過したホワイトハッカー集団と最先端の脆弱性自動検知システムにより脆弱性を検出するサービスの提供を開始。従来の脆弱性診断と比べて35%以上の高い投資効果を実現。



ホワイトハッカー集団



脆弱性自動検知システム

New Service

監視・運用

Aella Data

AIで真の異常を自動で検知する 盲点なきセキュリティ監視サービスの 提供を開始

米国のAella Data社と協業し、AIを活用し、ネットワークを侵害するイベントを自動的に検知するソリューションサービスの提供を開始。侵入やデータ漏洩の原因検出を従来型サービスの1/30,000程度の時間で検出可能。



実際の監視画面

エンタープライズ
ENTERPRISETopic
1技術の活用による
テスト自動化を推進

当社グループでは、他社とのアライアンスも積極的に活用することで、当社グループの強みである8,000名を超える豊富な人材と各分野における先進的な技術を組み合わせたソリューションサービスの拡充に努めております。

今後も効率のかつ精度の高いテストサービスの提供に努めることで、競争力の向上を図って参ります。

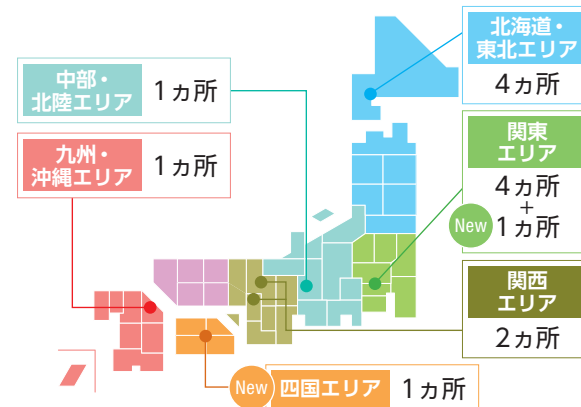
技術活用事例

	利用技術	サービスプロバイダー
負荷診断自動化	Micro Focus LoadRunner	株式会社 デジタルハーツ × MICRO FOCUS
脆弱性診断自動化	F-Secure Radar	株式会社 デジタルハーツ × F-Secure
研究開発中	AIを活用したテスト自動化ツール	株式会社 デジタルハーツ × HEROZ JAPAN

コーポレート
CORPORATETopic
2松山・新宿にLab.を新設
全国14拠点へ拡大

当社グループでは、積極的にテスト人員を採用・育成することで、受注体制を強化するとともに、雇用の創出を通じた地域活性化に取り組んでおります。

この度、これらの取り組みの一環として、新たに松山・新宿にテストセンターであるLab.を開設いたしました。

エンターテインメント
ENTERTAINMENTTopic
3

「EVO Japan 2018」開催

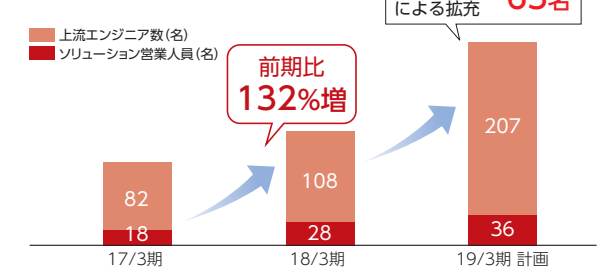
世界最大級の格闘ゲーム大会「EVO」を日本で初めて開催いたしました。世界各国から、7,000名を超えるプレイヤーが参加し、会場の至るところで激戦が繰り広げられました。また、プレイするだけではなく、対戦を真剣な表情で観戦する観戦者の姿も多く見られ、勝敗を分けるシーンでは会場一体となって大きな歓声があがるなど、会場は大きな熱気で包まれました。

エンタープライズ
ENTERPRISETopic
4テストエンジニアの
採用・育成を強化

当社グループでは、エンタープライズ分野での成長を加速させるため、システム開発やセキュリティ等、専門的な知見を持つ人材の確保・育成に努めております。

ゲーム等のテストを行っていた人材を、より高度なシステムのテストに対応できる人材に育成するための社内教育プログラムを整備するとともに、GNTグループやバルテス(株)等他社とのアライアンスも積極的に活用することで、早期にテストエンジニアの拡充に努めて参ります。

専門人材の拡大



連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	17/3期 前期末	18/3期 当期末
流動資産	6,221	6,813
固定資産	1,430	1,761
資産合計	7,651	8,575
流動負債	3,759	3,929
固定負債	1,033	1,075
転換社債型新株予約権付社債	1,017	1,017
負債合計	4,793	5,005
株主資本	2,590	3,340
資本金	300	300
資本剰余金	277	331
利益剰余金	4,164	5,113
自己株式	△2,152	△2,405
その他の包括利益累計額	42	28
非支配株主持分	225	200
純資産合計	2,858	3,570
負債純資産合計	7,651	8,575

連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	17/3期 前期	18/3期 当期
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,825	1,436
投資活動によるキャッシュ・フロー	△610	△618
財務活動によるキャッシュ・フロー	△69	△250
現金及び現金同等物に係る換算差額	1	△2
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	1,146	564
現金及び現金同等物の期首残高	2,197	3,344
連結除に伴う現金及び現金同等物の減少額	—	△15
現金及び現金同等物の期末残高	3,344	3,894

連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	17/3期 前期	18/3期 当期
売上高	15,444	17,353
売上原価	10,938	12,394
売上総利益	4,506	4,958
販売費及び一般管理費	2,599	3,222
営業利益	1,906	1,735
営業外収益	128	57
営業外費用	37	10
経常利益	1,997	1,782
特別利益	17	2
特別損失	573	151
税金等調整前当期純利益	1,441	1,632
法人税等	641	503
当期純利益	800	1,129
非支配株主に帰属する当期純利益又は 非支配株主に帰属する当期純損失(△)	4	△70
親会社株主に帰属する当期純利益	795	1,200

詳しい財務情報を知りたい方は

ホームページのご紹介

当社のホームページでは、投資家の皆様向けの情報をはじめ、事業内容や最新のニュースなど、さまざまな情報を公開しています。

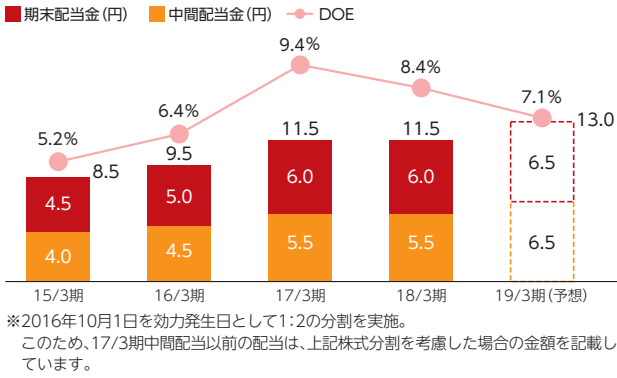
▶ <http://www.heartsunitedgroup.co.jp/>

安定的な配当を継続

当社は、連結ベースでの中期的な目標純資産配当率（DOE）を7%とした上で、連結業績等を総合的に勘案しながら配当を実施いたします。

2018年3月期の年間配当金につきましては、11.5円とさせていただき、2019年3月期につきましては、前期より1.5円増額の13.0円を予定しております。

配当金・DOEの推移



株主優待

毎年3月31日現在の株主名簿に記載された1単元（100株）以上保有の株主様を対象としております。

保有株式数	株主優待品
1単元 (100株) 以上 2単元 (200株) 未満	おこめギフト券 (3 Kg分)
2単元 (200株) 以上	おこめギフト券 (6 Kg分)

Stock Information

株式の状況 (2018年3月31日時点)

株式の状況

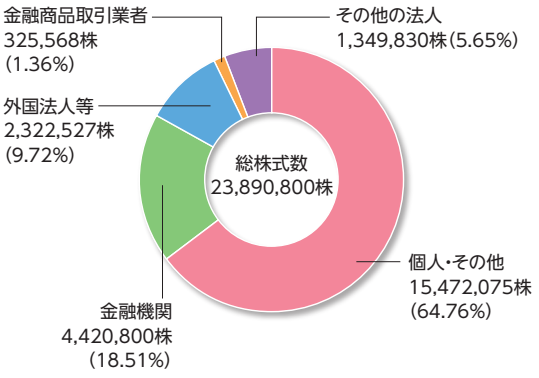
発行可能株式総数	76,800,000株
発行済株式の総数	23,890,800株 (自己株式2,097,422株を含みます。)
株主数	9,122名

大株主の状況

株主名	持株数 (株)	持株比率 (%)
宮澤米一	6,987,697	32.06
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,839,800	13.03
A-1合同会社	1,200,000	5.50
A&G共創投資第1号投資事業有限責任組合	1,095,983	5.02
STATE STREET LONDON CARE OF STATE STREET BANK AND TRUST, BOSTON SSBTC A/C UK LONDON BRANCH CLIENTS - UNITED KINGDOM	620,000	2.84

(注) 1. 当社は、自己株式2,097,422株を保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

所有者別株式分布状況



※「個人・その他」には自己名義株式2,097,422株(8.78%)を含んでおります。